

2. 交流内容に関する事項

(1) 交流内容について(できるだけ具体的に記入ください)

<p>① 交流名 (事業名)</p>	<p>姉妹都市交流事業</p>
<p>② 交流の内容</p>	<p>【マリンガ市との交流】 ブラジル・マリンガ市へは、例年8月に加古川市青年海外派遣で青少年を派遣し、国際交流活動、多文化共生活動等のリーダー養成とともに、市民レベルでの友好交流を図っている。マリンガ市は、ブラジル国内でも日系人が町の発展に大きく貢献した町として知られ、派遣にあたってはブラジル文化の研修のみならず日本人市民の歴史や経過等について深く研修し、特に派遣の際には、加古川ライオンズクラブより寄贈を受けた日本語教育関係図書を、加古川市が設立に支援したマリンガ市における日本語教育の拠点である「加古川・マリンガ外国語センター」へ持参し、日系人や日本語を学ぶ子どもたちとの交流も展開している。また、例年1月には、マリンガ市から同様に青少年を加古川市に受け入れ、ホームステイや各種関係団体との交流、施設訪問等を通して、加古川市民との交流を深めている。また、互いの市制周年や節目の年には大規模な市民訪問団を互いに派遣するとともに、行政や産業等多方面にわたる実質的な交流を積み重ねている。</p> <p>マリンガ市には、加古川大通り(アベニーダカコガワ)や、元市長の名前を冠した施設、加古川市が支援した広大な日本庭園等があり、加古川市にもマリンガ通り(アベニーダマリンガ)やマリンガ大聖堂をかたどったモニュメントが市のランドマークになっているなど、互いの市民の中に定着している。近年はコロナ禍の中で直接的な人的交流が制限される中ではあるが、本年には東京オリンピック、パラリンピックのブラジルホストタウンとしてシッティングバレーボール競技の応援を実施するなど、オンライン上での交流を積極的に展開している。</p> <p>【オークランド市との交流】 ニュージーランド・オークランド市へは、例年8月と2月に市内の中学生を派遣しており、8月に実施している加古川市中学生海外派遣では、各個人に分かれてのホームステイのなかで、学校訪問事業等を展開し、現地の中学生や市民との密接な心の交流を深め、語学の習得のみならずグローバルな視点を持った人材の育成に努めている。また、2月に実施している加古川市障がい者海外派遣では、障がいを持つ中学生を派遣し、現地の特別支援学校や障がい者関連施設を訪問し、互いに交流事業に参加するなど障がいを持つ中学生の自信と生きる力を育てている。互いの市制周年や節目の年には大規模な市民訪問団を多互いに派遣するとともに、行政や文化等多方面にわたる交流を積み重ねてきており、オークランド市(ワイタケレ市)には、加古川市が支援した日本庭園や平和の鐘が設置され、定期的な式典が開催されているなど交流が定着しており、また、加古川市にもマオリ族のトーテムポールが設置されるなど互いの文化を大切に交流が続いている。本年からニュージーランドからのCIRが着任し各種交流事業の積極的展開を計画している。</p> <p>【桂林市との交流】 医学交流からスタートした中国・桂林市との交流は、現在においても、加古川中央市民病院と桂林市第2人民醫院の医学交流は継続し、医師の短期派遣や医学発表の機会を設けたりしている一方、交流自体は幅広い自治体間交流に発展している。互いの市制周年や節目の年には大規模な市民訪問団を互いに派遣するとともに、行政や文化等多方面にわたる交流を積み重ねてきており、近年は新型コロナウイルス対策物資の相互支援事業として令和元年度は加古川市から桂林市へマスク12,000枚、令和2年度は桂林市から加古川市へマスク50,000枚と相互にマスクの寄贈と受贈を行い、共通の災禍に対してメッセージとともに相互支援を行った。また、令和3年度はコロナ禍における交流の取組として、桂林市から日本の風景や日本を応援する内容の書画作品が寄贈され、市内の子どもたちとの文化交流が展開されている。</p>

<p>③ 背景・経緯</p>	<p>【マリンガ市との交流】 マリンガ市との交流は昭和45年に兵庫県とパラナ州との間で姉妹都市提携がなされたことを受けて、昭和48年に加古川市と姉妹都市提携を締結し、以降様々な交流を積極的に展開してきたものであるが、交流当初から人的交流を積極的に展開しており、特に青年海外派遣事業は両市で相互派遣する形で実施され、加古川市からは第28回派遣されており、青少年174人が派遣されている。</p> <p>【オークランド市との交流】 ニュージーランド在住の日本人の仲介により加古川市、ワイタケレ市の協議が進み、平成4年に姉妹都市提携を締結した。その後ワイタケレ市が平成22年11月1日隣接するオークランド市と合併したことにより、ワイタケレ市との間で締結していた姉妹都市提携は、オークランド市に継承されることとなり、平成24年にオークランド市において姉妹都市提携の調印を行ったものである。当初より中学生海外派遣事業等次代を担う青少年に国際感覚を身に付けグローバル人材として育成することを両市の交流の中心に据え積極的に事業展開をしてきた。また、平成7年からは、障がい者海外派遣事業として障がいを持つ中学生も派遣しており、特に中学生など青少年の国際交流体験の推進を積極的に展開してきた。中学生海外派遣は、29回実施され、中学生346人が、障がい者海外派遣は26回ニュージーランドに派遣され、中学生207人が派遣されている。</p> <p>【桂林市との交流】 桂林市との交流は昭和63年、加古川市民の発意により、加古川市民病院と桂林市第2人民医院の医学交流が始り、医師の相互派遣を行い、視察や医学発表を行うなどの交流を実施していたが、それ以降、自治体間の交流に発展し、使節団、市民訪問団の相互派遣などの交流が続けられている。近年は、新型コロナウイルス感染拡大を契機として互いに積極的に情報交換を進める中で、互いの窮状に対し支援活動を行うなど、友好関係の深化が図られている。</p>
<p>④ 交流の成果</p>	<p>【マリンガ市との交流】 加古川市の国際交流の契機、黎明期にある、マリンガ市との姉妹都市交流は、50年近い人的交流の積み重ねをベースとして継続されており、両市の市民の中で深く根付いている。マリンガ市の中には、加古川ゆかりの道路、建物、公園など市民生活に密着したインフラが多くあり、アベニーダカコガワの住所表示がある地域が広範囲にあるなど、市民の中での認識は非常に高いものがある。とりわけ日系人が町の発展に大きく貢献した歴史的経過もあり加古川、日本への好感度は非常に高いものがある。また、中でも青年海外派遣の相互派遣事業、加古川市・マリンガ外国語センターの充実した活動、加古川市等が支援した約5万㎡の広大な日本庭園などがある。一方加古川市にもJR加古川駅北口から続くマリンガ通り、駅北ロータリーの中に形作られたマリンガ大聖堂の10分の1のチタン製モニュメント(12.4メートル)は、加古川市のシンボル、ランドマークになっている。人的交流(青年海外派遣は合計174人を派遣)の実績をもとに、各種国際交流団体ボランティア等に登録、参加している市民の数も600人を超えており交流の実績といえるものである。他にも加古川市のイベント「踊っこまつり」が契機となり、よさこいソーラン節がマリンガ市内で開催される日本文化祭で毎年披露され、多くのマリンガ市民が祭りに参加され、また、加古川市独自のソウルフードである「かつめし」が現地のレストランや祭りで披露されるなど、市民レベルでの交流が広がっているところである。</p> <p>【オークランド市との交流】 オークランド市との交流は特に前述したように中学生海外派遣、障がい者海外派遣等の青少年の派遣を中心とした人的交流の積み重ねに特徴と成果がある。特に障がい者海外派遣事業は、現在まで28回実施し、そのうち26回はオークランド市(ワイタケレ市)に派遣されている。現地行政、教育機関からは当事業の実施については高く評価されており、特別支援学校への訪問や障がい者福祉施設では、子どもたち同士のフランクな体験交流事業が展開できており、当姉妹都市交流の大きな特徴となっている。中学生海外派遣事業では合計346人を派遣し、現地の学校訪問やホームステイ、歌の披露や食文化の披露を組み込み、現地の中学生や市民との交流を通して中学生が多様な文化を学ぶ機会を提供している。派遣生やその家族の中にはその後国際交流ボランティア活動への参加につながっている方もある。障がい者海外派遣では今までに合計222人派遣し、当該事業を研究した大学のレポートからは、参加した障がい者の目標達成を目指す「達成動機」の上昇が見られたことが報告されるなど青少年の成長に寄与することが確認されている。また、加古川市が援助した日本庭園については、毎年原爆投下日に日本庭園にある「平和の鐘」を鳴らす式典が市の公式行事として実施され、オークランド市の平和事業が実施されている。</p> <p>【桂林市との交流】 桂林市とは病院間の医学交流として交流が開始されたが、病院間の交流にとどまらず、自治体間交流に大きく発展しており、加古川市内の企業が桂林市工場進出をしたりといった経済交流や、行政職員の研修受け入れなど多岐に渡る内容へと発展してきた。このようななか、今般のコロナ禍における交流のあり方としてマスクの相互支援といった互いを思いやる交流が展開できている。</p>

<p>⑤ 今後の展望</p>	<p>【マリンガ市との交流】 地球の反対側に位置する遠い距離にあるが、心情的には臨戸のような密接度での約50年間の人的交流や行政交流は、あまり例がない姉妹都市交流となっており今後とも継続することが期待されている。パラナ州全体も含めた経済交流も非常に活発であり、マリンガ市とは、加古川市のソウルフードである「かつめし」のマリンガ市での普及や、マリンガ市出身のサッカー選手のアレックス三都主氏の加古川観光大使への委嘱なども行っており、スポーツ交流など交流分野の広がりが今後期待されている。また、海外派遣事業の参加者には、国際交流活動を市民レベルで推進するリーダーとしての活躍を期待しており、ボランティア活動を通して、今後も増加が予想される外国人を支援する担い手となってもらうことを目指している。今後、これら国際交流活動のリーダーが中心となり、事業を継続するとともに、地域の国際化に貢献されることを期待している。</p> <p>【オークランド市との交流】 グローバル人材の育成を目的とした中学生海外派遣事業等は、ワイタケレ市から数えて約30年を迎えるオークランド市との姉妹都市交流の中心事業と位置付けており、また、他にあまり例のない障がい者海外派遣事業も含め、今後とも交流の核として実施していきたいと考えている。特に参加者には、ボランティアとして活動してもらい、今後も増加が予想される外国人を支援する担い手となってもらうことを目指している。</p> <p>【桂林市との交流】 桂林市とは具体的な姉妹都市提携を結んではいない中、30年を超える友好交流の実績があり、医学交流をはじめ自治体交流としての幅広い交流の実績を積み重ねてきた。今後、コロナ禍の中での交流実績は、物資の相互支援や、市民の思いの詰まった書画寄贈など両市の存在を市民がより身近に感じることができるに交流につながっており、今後より一層良好な関係を構築していきたい。</p>
<p>⑥ その他</p>	<p>【日本庭園等日本文化の発信】 マリンガ市とオークランド市(旧ワイタケレ市)に日本庭園を寄贈し、マリンガ市での造園の際には、造園業者等の加古川市民を派遣し、現地で設計指導に協力した。オークランド市のワイタケレ地区にある日本庭園においても技術者を派遣して、製作指導にあたりまた、鐘を設置するなど日本庭園などの日本文化の発信につなげている。いずれも現地での茶道文化の発展につながっている。 また、オークランド市では、毎年原爆投下日に日本庭園において、加古川市から寄贈した「平和の鐘」を鳴らし、オークランド市の平和事業を担っている。</p>

(2) アピールポイント

下記①～⑥の【審査のポイント】に基づき審査いたします。各視点に沿って、事業の特徴等をご記入ください。

その他、強調すべき点については、「⑦その他」にご記入ください。

項目	根拠・理由
① 先進性	マリンガ市においては、相互の青年の派遣、交流を30年にわたって継続実施している。また、マリンガ市にある「加古川・マリンガ外国語センター」への支援を通して現地の日本語教育支援を実施している。オークランド市においては、加古川市内の医療機関等の協力のもと、障がいをもつ方々の自立支援を目的として障がい者海外派遣を28年にわたり実施しており、オークランド市の障がいをもつ方々との交流を図っている。桂林市とは人類共通の災禍に対して、新型コロナウイルス対策物資の贈呈や日本を応援する内容の子どもたちの書画の寄贈などコロナ禍において直接的な人的交流に依らず交流を深めるあり方を工夫している。
② 独自性	マリンガ市には、平成5年に「加古川・マリンガ外国語センター」の設置を支援し、それ以降マリンガ市内での日本語学習や日本文化の理解促進の継続的な支援を行っている。また、平成20年に技術者を派遣し、マリンガ市の日本庭園建設への側面支援を行った。オークランド市へは、加古川市障がい者海外派遣事業をスタッフ体制整備を行いながら実施し、現地での障がい者関連施設とも連携してプログラムを作成している。オークランド市での障がい者福祉施策にも繋がり、障がい者を含む多様な市民の交流の機会となっている。桂林市とは令和元年度は加古川市から桂林市にマスクを1万2千枚を寄贈、令和2年度は桂林市から加古川市がマスクを5万枚受贈するなど長年の医学交流を背景とした独自の取組を行っている。
③ 継続性	青年海外派遣事業は28回、中学生海外派遣事業は29回、障がい者海外派遣事業は28回実施し、数多くの派遣生が両市を訪問している。派遣生には、各種ボランティア等に登録し、姉妹都市からの訪問団来日の際には、ホストファミリー等両市の姉妹都市交流への継続的な参加を促している。
④ 活発性	マリンガ市との交流事業である青年海外派遣事業には28回実施、合計174人が参加し、オークランド市との交流事業である中学生海外派遣事業には29回実施、合計346人が、障がい者海外派遣事業には28回(ニュージーランドには26回)222人(ニュージーランドには207人)が参加した。長年継続的な友好交流を続けている。派遣生やその家族のその後の国際交流ボランティア活動への参加につながり、国際交流ボランティア登録者が600名を超えるなど地域住民への広がりをみせている。
⑤ 協働性・連携性	マリンガ市とは、マリンガ市側では、マリンガ文化体育協会(アセマ)、和順会、商工会議所等と協力し、青年海外派遣のプログラムを提供している。また、マリンガ市からの訪問団受け入れの際は、市内大学、商工会議所、病院等医療機関等と協力して対応している。また、派遣、受入どちらも両市の市民の全面的な協力のもと、ホームステイが実施できている。オークランド市とは、障がい者海外派遣事業においては、中央市民病院、特別支援学校、中学校等からの全面的な協力のもとスタッフ派遣を受けている。また、オークランド市内の障がい者関連施設と協力してプログラムを提供している。

<p>⑥ 効果 (相手方に与えた 影響や効果を含む)</p>	<p>加古川市における姉妹都市交流は、いずれも長年にわたり、また実質的な人的交流、様々な分野にまたがる交流を展開しており、特に青少年を中心とした人的交流が、市民レベルの交流を喚起し、本市の未来を担う国際感覚を身につけた青少年の育成、グローバル人材の育成に繋がっている。また、派遣、受入事業を通して市民の国際理解を深め、多文化共生の理解促進に役立っている。合わせて、姉妹都市交流を通して、ブラジル、ニュージーランド、中国への日本文化の発信にも大きくつながっており、特に日本語指導や日本庭園の設置支援、指導においての具体的実績につながっていること、日本、加古川市のイメージ向上に大きくつながるものである。</p>
<p>⑦ その他 (500文字以内)</p>	<p>当市の姉妹都市交流事業は、長年の実績に裏打ちされた相互の人的交流の積み重ねに特徴があると考えている。3市それぞれに特徴ある事業で交流の実績を積み重ねているが、実質的に多くの市民に参加いただくとともに、それらの事業効果を広め継続する取り組みを継続していることが、市民の理解を得ている理由であると考えている。今後とも人を中心とした交流を核に、より幅広いテーマを生かした交流を展開していきたい。</p>

※定量的に示すことが可能な実績があれば、積極的に記載ください。

【審査のポイント】

<p>①先進性</p>	<p>・他団体に広がる先例や模範となりうるものとなっているか。</p>
<p>②独自性</p>	<p>・創意工夫に富み、他団体では見られないような独自の発想や着眼点があるか。</p>
<p>③継続性</p>	<p>・活動の継続、効果や実績の定着が期待できるか。 ・(実績は少なくとも)今後の活動の継続性・発展性が大いに期待できるか。</p>
<p>④活発性</p>	<p>・活動内容が質量ともに充実しているか。 ・多様かつ多数の者が活動に参加又は関与しているか。 ・双方の自治体の住民への広がりがあるか。</p>
<p>⑤協働性・連携性</p>	<p>・行政と住民等、多様な主体間での協働、連携がなされているか。 ・協働、連携により、事業の効率的な実施や成果の向上が図られているか。</p>
<p>⑥効果</p>	<p>・この取組により、地域の国際化、地域経済の活性化、地域の知名度やイメージの向上等につながっているか。</p>